

ごみから生まれる 地域の電力

全区立小・中学校等でごみ発電の電力を使用

ごみ発電による再生可能エネルギーの環境学習を実施

新たな取り組み

事業経費

33万円

◆事業内容

- 現在、一部の区立小・中学校で行っている、東京エコサービス株式会社※1が供給する清掃工場で発電した電力の導入について、全区立小・中学校及び義務教育学校※2に拡大し、全69校でごみ発電の電力を使用します。
- ごみ発電による再生可能エネルギーについてのリーフレットを作成し、区立小・中学校及び義務教育学校で環境学習を実施します。

※1 東京エコサービス株式会社：東京二十三区清掃一部事務組合と東京瓦斯株式会社の共同出資により、平成18年に設立した会社

※2 義務教育学校：小学校課程から中学校課程まで義務教育を一貫して行う学校。区内初の義務教育学校として、平成30年4月に有明西学園が開校

◆目的

小・中学生が、ごみ発電の導入効果とともに、区内の清掃工場で発電した電力が学校で使用されていることについて学ぶことを通して、環境学習の拡充を進めます。

◆特色

- ごみ発電はバイオマス発電の一種で、ごみを燃焼させることにより発生させた水蒸気のパワーでタービンを回して発電します。バイオマス発電は再生可能エネルギーに分類され、CO₂の総量を増やすことなく発電できます。
- CO₂排出係数※の低い東京エコサービス株式会社との電力契約を全区立小・中学校及び義務教育学校に拡大することで、年間約2,400tのCO₂排出量と約1,500万円の電気料金を削減することができます。

※ CO₂排出係数：電力会社が一定の電力を作り出す際にどれだけの二酸化炭素を排出したかを算定する係数平成28年度環境省公表値 東京エコサービス株式会社：0.117(kg-CO₂/kWh)東京電力エナジーパートナー：0.474(kg-CO₂/kWh)

◆東京エコサービス株式会社との電力契約実績

年度	小学校	中学校	義務教育学校	計
平成28年度	15校	6校	—	21校
平成29年度	23校	6校	—	29校
平成30年度	29校	10校	0校	39校
平成31年度	45校	23校	1校	69校



区内にある新江東清掃工場

◆他区の状況

全区立小・中学校及び義務教育学校において、東京エコサービス株式会社と電力契約を結び、ごみ発電の電力を使用するのは23区で2番目

長期計画の該当項目：施策5 低炭素社会への転換

担当課：温暖化対策課

窓口：防災センター6階3番

電話：3647-6124

内線：6312

東京の環境問題に本区が果たした役割を世界に発信！

えこっくる江東 ごみ戦争の展示内容を充実

過去に学び、未来に思いを馳せ、今日を創る

事業の拡充

事業経費

1,000万円

◆事業内容

環境学習情報館「えこっくる江東」1階常設展示室に設置している、ごみ戦争(※)の歴史・経緯などを解説する展示内容を、さらに充実させます。

※ ごみ戦争：昭和30年代以降、都内のごみの量が爆発的に増え続けた一方、各区の清掃工場建設は進展しない状況が続いた。昭和46年、ごみの7割はそのまま本区地先の最終埋立処分場に運ばれ、清掃車が集中する江東区は、渋滞、騒音、悪臭等に長年悩まされた。この状況下、同年9月28日に東京都知事は、徹底的にごみ対策を進めたいと「ごみ戦争」を宣言。その後の東京のごみ問題解決への礎となった

◆目的

都民が環境問題を身近に考える契機として“ごみ戦争”を捉え、当時の江東区の判断と対応が果たした事実を検証し、伝え続けることで、次世代を担う子どもたちをはじめ、多くの人々が環境問題をあらためて考える場を創出します。

◆特色

- 江東区のごみの歴史を広く周知することで、ごみ問題解決に向けた理解の促進につながります。
- ごみ問題に取り組む環境先進都市としてのイメージアップにつながります。

◆背景

現在もごみの最終埋立処分場(中央防波堤埋立処分場)を抱える本区の歴史は、東京の環境問題と密接に関係しています。

ごみ戦争宣言からまもなく50年を迎えるとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催地として、世界の関心が本区に寄せられる好機を捉え、世界も視野に入れた、より強い環境保全のメッセージを発信します。

◆展示概要

開始時期 平成32年3月頃 ※調整中

内容(予定) VTR放映、埋立ての変遷、当時の写真・参考文献の展示 など
※ 詳細については、今後調整



中央防波堤埋立処分場

◆他区の状況

平成29年、東京二十三区清掃一部事務組合が杉並清掃工場の建替えにあわせ、工場内に「東京ごみ戦争歴史みらい館」を開館し、杉並清掃工場の歴史と教訓を伝えています。

長期計画の該当項目：施策3 地域からの環境保全

担当課：温暖化対策課 環境学習情報館
(えこっくる江東)

電話：3644-7130

観光客等が多く集まる公園の暑さ対策
豊洲ふ頭内公園でミスト設備等を設置
 暑さを緩和するクールエリアを創出！

新たな取組み

事業経費

4,039万円

◆事業内容

観光客を含めた公園利用者を熱中症・熱射病等から守るため、豊洲ふ頭内公園にミスト設備の付いたパーゴラ(※1)や東屋(あずまや)(※2)を設置し、クールエリアを創出します。

※1 パーゴラ：屋根が格子・網状等になっている日除け棚

※2 東屋：柱と屋根だけ、または簡単な壁面が取り付けられた休憩用・眺望用の小さな建物

◆目的・効果

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催や豊洲市場開場を踏まえ、微細ミスト噴霧により、清涼感や快適感を創出することで、暑熱環境の緩和を図ります。

◆設置概要

場所	豊洲ふ頭内公園 ○豊洲公園 ○豊洲六丁目公園 ○豊洲六丁目第二公園 ○豊洲ぐるり公園
設置数	4基(各公園1基)
設置予定	平成31年夏～秋頃



ミスト+パーゴラ(イメージ)



整備例(京王線 飛田給駅前)

◆他区の実施状況

区立公園では中央区、港区で実施



長期計画の該当項目：施策1 水辺と緑のネットワーク

担当課：河川公園課
 窓口：防災センター6階1番

電話：3647-2089
 内線：6471